



TITLE:

陰嚢内平滑筋腫の1例

AUTHOR(S):

中, 祐次; 岡田, 日佳; 川村, 博; 小松, 洋輔; 坂井田, 紀子; 螺良, 愛郎

CITATION:

中, 祐次 ...[et al]. 陰嚢内平滑筋腫の1例. 泌尿器科紀要 1991, 37(5): 553-555

ISSUE DATE:

1991-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/117173>

RIGHT:

陰 囊 内 平 滑 筋 腫 の 1 例

関西医科大学泌尿器科学教室 (主任 : 小松洋輔教授)

中 祐次, 岡田 日佳, 川村 博, 小松 洋輔

関西医科大学第2病理学教室 (主任 : 森井外吉教授)

坂井田紀子, 堀良 愛郎

INTRASCROTAL LEIOMYOMA: REPORT OF A CASE

Yuji Naka, Hiyoshi Okada, Hiroshi Kawamura and Yosuke Komatz

From the Department of Urology, Kansai Medical University

Noriko Sakaida and Airo Tsubura

From the Department of Pathology, Kansai Medical University

A case of intrascrotal leiomyoma is reported. The patient was a 56-year-old male who complained of painless mass in the scrotum. He noticed the mass about 10 years ago and it had gradually enlarged. The mass was removed surgically. Pathohistological diagnosis of the specimen was leiomyoma. The literature revealed 13 cases of intrascrotal leiomyoma in Japan. (Acta Urol. Jpn. 37: 553-555, 1991)

Key words: Intrascrotal mass, Leiomyoma

緒 言

陰囊内に発生する, 精巣, 精巣上体および精索と無関係な, いわゆる陰嚢内腫瘍は非常に稀である。今回, われわれは陰嚢内平滑筋腫の1例を経験したので報告する。

症 例

患者: 56歳, 男性

主訴: 右陰嚢内腫瘍

家族歴: 特記すべきことなし

既往歴: 糖尿病

現病歴: 約10年前より陰嚢部右側の無痛性の硬結に気付いていたが放置していた。徐々に大きくなる傾向があった。1989年6月糖尿病性腎症悪化のため血液透析導入目的にて, 本院第2内科入院後当科を紹介される。

現症: 体格中等, 栄養良好。右前胸部に刺傷痕, 上半身に刺青あるが, 胸腹部に理学的所見なし。右陰嚢内に母指頭大の右精巣, 精巣上体とは区別できる無痛性の腫瘤を触知する。硬度は弾性硬で, 皮膚との癒着は認めない。週3回血液透析中である。

検査成績: 尿所見; pH 7.5, 蛋白 (卅), 糖 (-), WBC 10~20/1 視野, RBC 20~30/1 視野, 円柱

(+), 血液所見; WBC 7,000/mm³, Hb 8.4 g/dl, Ht 26.8%, 血小板 17.2×10⁴/mm³, BUN 70 mg/dl, クレアチニン 8.5 mg/dl, UA 11.0 mg/dl。

手術所見: サドルブロック下に陰嚢部に皮膚切開を加えた。腫瘍は皮膚との癒着なく, 総鞘膜との癒着を認めたが, 鈍的に剝離しえた。

摘出標本: 腫瘍は大きさ 2.5×2×1.5 cm であり弾性硬で, その断面は黄白色, 充実性を呈していた (Fig. 1)。

病理組織学的所見: 長紡錘形の核を有し好酸性の細胞質を持つ腫瘍細胞が, 束状配列をとり縦横に交錯してみられる。分裂像などの悪性所見は認められなかった (Fig. 2)。

以上より平滑筋腫と診断した。

考 察

精巣, 精巣上体, 精索と無関係に発生する腫瘍は稀である。陰嚢内に発生する腫瘍の部位を術前に診断することは困難なことが多いため谷川ら¹⁾は陰嚢内非精巣腫瘍を発生部位より精巣上体, 精索および精巣白膜の3型に分類している。しかし一般に陰嚢内腫瘍はLowsley と Kirwin²⁾ が提唱した肉様膜から固有鞘膜外までの間より発生する腫瘍のことを指し, 陰嚢部皮膚に病変のある場合は皮膚腫瘍³⁾として報告され

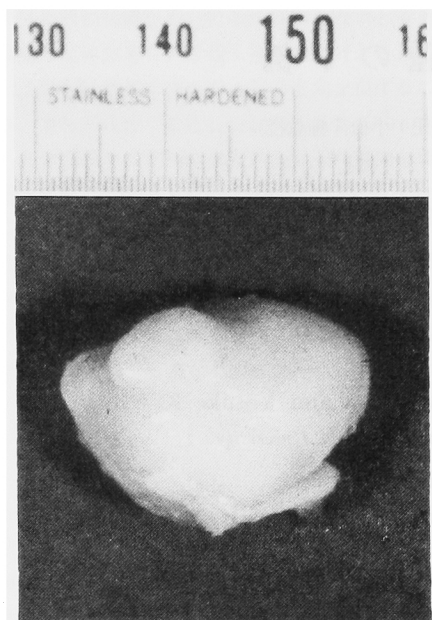


Fig. 1. Macroscopic appearance of intrascrotal tumor

泌尿科領域での陰嚢内平滑筋腫は自験例を含めて13例⁹⁻¹⁴⁾である (Table 1)。

本邦陰嚢内平滑筋腫に臨床的検討を加えた。年齢分布は27歳から80歳で、40歳台に多く平均49.4歳であった。患側は右側2例、左側7例および両側2例であった。発生部位としては総鞘膜由来6例、肉様膜由来4

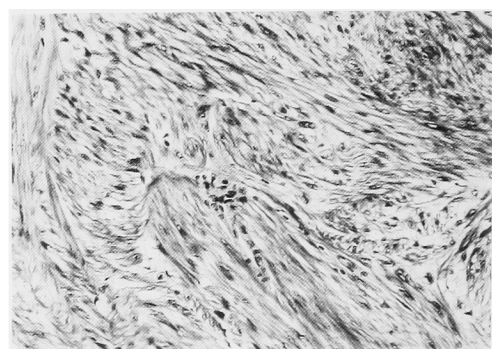


Fig. 2. Microscopic appearance of intrascrotal tumor. Pathohistological diagnosis was leiomyoma. H-E stain $\times 200$

Table 1. Case reports of intrascrotal leiomyoma in Japanese literature

報告者	報告年	年齢	患側	主 訴	大きさcm	経過	治 療	発生部位	合併症・他
1. 清水	1958	42	両	右陰嚢内腫瘍	右 1 左 0.5	10年	摘出術	総鞘膜	—
2. 河合	1969	79	左	左陰嚢内腫瘍	12×9×7	3年	摘出術	—	骨盤腔内発育
3. 川口	1973	27	左	左陰嚢内腫瘍・尿瘻 排尿困難	9×6×5	7年	摘出術 尿道閉鎖・膀胱瘻	肉様膜	尿瘻
4. 神田	1974	30	右	右陰嚢内腫瘍	6×5×4.5	—	右精巣摘出術	—	—
5. 重松	1975	46	左	左陰嚢部有茎性腫瘍	小指頭大	4年	摘出術	肉様膜	—
6. 中山	1978	49	両	右陰嚢内無痛性腫瘍	—	—	摘出術	総鞘膜	陰嚢水腫
7. 佐藤	1982	33	左	陰嚢およびそ径部の 痛みと腫脹	4.5×2.8×3.5	10年	左精巣摘出術	総鞘膜	陰嚢水腫
8. 近藤	1984	80	左	左陰嚢内腫瘍	9×7×4	—	左精巣摘出術	肉様膜	—
9. 西山	1987	46	左	左陰嚢内腫瘍	6×5×4	20年	摘出術	肉様膜	—
10. 山部	1987	49	—	無痛性陰嚢内腫瘍	—	—	摘出術	—	—
11. 古谷	1988	42	左	左陰嚢内腫瘍	3×2×1.5	10年	摘出術	総鞘膜	—
12. 中村	1988	63	右	右陰嚢内無痛性腫瘍	1.5×1×0.7	5年	摘出術	総鞘膜	—
13. 自験例	1990	56	右	右陰嚢内腫瘍	2.5×2×1.5	10年	摘出術	総鞘膜	DM 透析中

ており、また精巣摘出術後に発生した例⁴⁾などもあり泌尿器科領域では Lowsley と Kirwin²⁾ の定義に従うのが適切と考える。

平滑筋腫は、立毛筋より発生する皮膚平滑筋腫、孤立性血管平滑筋腫および孤立性性器平滑筋腫に分類されている。陰嚢部平滑筋腫の報告は欧米においても Stout⁵⁾ が文献検索にて5例を紹介して以来22例⁶⁻⁸⁾である。本邦においてわれわれが文献上収集しえた泌

例、不明が3例である。症状は陰嚢内の無痛性腫瘍を主訴とするものが大部分であり、何年間も放置されていることが多く、ゆっくりと増大する傾向にある。近年画像診断学の向上に伴い、超音波断層法で術前に平滑筋腫と診断しえたという報告¹⁰⁾もある。

治療に関しては、腫瘍摘出術が10例、精巣摘出術が3例になされているが、腫瘍摘出術のみで充分であろう。同ような症状、経過で悪性であった症例も報

告¹⁵⁾されており, 術前の良性と悪性の鑑別は困難で中村⁹⁾らは腫瘍と精巣の連続性, 腫瘍の大きさ, 性状などを診断にあたって考慮すべきであると述べている。しかし, 術中迅速病理組織診断を行うなど積極的な手術治療を行い, 悪性腫瘍が疑われる場合は高位精巣摘出術を行うべきである。

結 語

56歳, 男性の陰嚢内に発生した平滑筋腫の1例を経験した。本症例は文献上本邦13例目であった。

本論文の要旨は第130回日本泌尿器科学会関西地方会にて発表した。

文 献

- 1) 谷川克己, 松下一男, 大越正秋: 精索平滑筋腫の1例. 泌尿器外科 2: 933-935, 1989
- 2) Lowsley OS and Kirwin TJ: Clinical Urology. p.174, Williams and Wilkins Co., Baltimore, 1956
- 3) 木村俊次, 小坂橋定夫: 潰瘍を伴う瘢痕性局面を呈した陰嚢(肉様膜)平滑筋腫. 臨皮 42: 505-509, 1988
- 4) Giyani VL, Hennigan DB, Fowler M, et al.: Sonographic findings in leiomyoma post-orchietomy scrotum. Urology 25: 204-206, 1985
- 5) Stout AP: Solitary cutaneous and sub-cutaneous leiomyoma. Am J Cancer 29: 435-469, 1937
- 6) Tomera KM, Gaffey TA, Goldstein IS, et al.: Leyomioma of scrotum. Urology 18: 388-389, 1981
- 7) Livne PM, Nobel M, Savir A, et al.: Leiomyoma of scrotum. Arch Dermatol 119: 358-359, 1983
- 8) Wolf DI: Solitary nodule of the scrotum. Arch Dermatol 125: 418-419, 1989
- 9) 中村直博, 河原 優, 秋野裕信, ほか: 総鞘膜より発生した陰嚢内平滑筋腫の1例. 泌尿紀要 34: 721-723, 1988
- 10) 西山直樹, 日比秀夫, 柳岡正範: 陰嚢内に発生した bizarre leiomyoma の1例. 泌尿紀要 33: 961-963, 1987
- 11) 川口光平, 美川郁夫: 陰嚢内良性腫瘍の1例 (Fibroleiomyoma). 日泌尿会誌 64: 440, 1973
- 12) 神田静人, 藤田幸雄: 陰嚢内平滑筋腫. 日泌尿会誌 65: 409, 1974
- 13) 中山朝行, 服部義博, 伊藤弘世: 両側陰嚢内に発生した平滑筋腫の1例. 日泌尿会誌 69: 515, 1987
- 14) 山部克己, 遠藤俊輔, 中山晴夫: 陰嚢内平滑筋腫の1例. 茨城臨医誌 23: 154, 1987
- 15) 佐々木忠正, 増田富士男, 小路 良: 陰嚢内脂肪肉腫の1例. 泌尿紀要 23: 381-385, 1977

(Received on May 9, 1990)
(Accepted on June 12, 1990)